

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	基礎情報科学理論	1	15	1	1	院外講師
科 目 目 標						
研究の基本と用いられる統計の基礎的知識を学ぶ。						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目： 統計の誤用例、資料の整理1（度数分布表）</p> <p>2回目： 資料の整理2（ヒストグラム、度数多角形、箱ひげ図）</p> <p>3回目： 代表値1（（算術）平均とその意味、演習）</p> <p>4回目： 代表値2（その他の「平均」、中央値、最頻値）</p> <p>5回目： 散布度1（レンジ、平均偏差、分散、標準偏差）</p> <p>6回目： 散布度2（分散の性質、演習、普遍分散、変動係数、四分位偏差値）</p> <p>7回目： その他の散布度（パーセンタイル値、zスコア、偏差値）</p> <p>8回目： 試験（45分）</p>						<p>電卓を用いる。ルートの計算ができ、メモリーのある電卓を各自持参すること。</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
なし（講師の資料）			なし ※各自 電卓の持ち込み			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・演習			筆記試験			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	基礎情報科学実践	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
1. 基本ソフトの役割を理解するとともにファイルの管理ができる 2. ネット利用の方法と課題及び注意点を理解し、ネットを安全に利用する態度を身につける 3. 事務作業や学習で必要となる文書・計算表やグラフ・プレゼン資料をPCで作成することができる 4. コンピュータを活用するために必要な基礎知識や操作技法（タッチタイプ含む）を身につける						
講 義 内 容					留 意 点 等	
1回目：授業ガイダンス 基本ソフトの役割と操作（Windows8.1） エクスプローラとファイルの管理、教室環境の理解 2回目：インターネットと情報検索 文書入力（初回状況の確認） タッチタイプの重要性と方法、身につけるための練習方法 タッチタイプソフトのダウンロード タッチタイプ練習（以降毎回練習及び授業外練習） 情報モラル（モラルとセキュリティ） 3回目：表計算の基本（表の作成、式、表の編集、印刷方法） 情報モラル（個人情報） 4回目：表作成の基本（表作成練習 グラフ作成） 情報モラル（著作権） 5回目：表作成の基本（様々な関数を活用した表） 情報モラル（社会に潜む危険） 6回目：表作成の応用（表作成課題） 情報モラル（メールコミュニケーション） 7回目：文書作成の基本（ページ設定、フォント、段落） 情報モラル（Webによるコミュニケーション） 8回目：文書作成の基本（表現力アップ：図、写真、タブ等） 長文のレポートの編集、レポートの体裁 情報モラル（モバイル機器） 9回目：ビジネス文書作成 10回目：ポスタ資料作成の基本（ポスタ発表） パワーポイントの基本（画面、図形、文字、写真） 11回目：課題：紹介ポスタ制作（または情報モラルポスタ） 12回目：プレゼン資料作成の基本 アウトラインによるプレゼン資料作成 スライド画面での編集 13回目：プレゼン資料作成の基本 動きのデザイン（画面切替効果、アニメーション設定） 印刷の方法 14回目：課題：PRプレゼン資料制作 15回目：PRプレゼン等の課題提出 実技試験・理解度試験					各自、データを保存するUSBを用意してください。 2回目の授業で、タッチタイプ（手元を見ずにキーボード入力ができる技術）練習のためのソフトをUSBに入れる予定です。 練習方法を説明した回以降は、毎回授業初めにタッチタイプ練習をします。教室に入ったら、すぐに始めてください。 タッチタイプ練習を毎週の宿題とします。練習ソフトには、練習時間が記録されます。身につけるための継続した練習をしましょう。 毎回授業の終わりに、授業振り返りのネットアンケートを実施します。その日の授業を振り返ることと質問を記入してもらいます。これにしっかり記述することで授業時間における自分の学び方を確認することができます。意見や質問など積極的に入力してください。	
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
「情報リテラシー 情報モラル & 情報セキュリティ Windows 8.1 / Internet Explorer 11 / Word 2013 / Excel 2013 / PowerPoint 2013」FOM出版			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・演習			授業で課す課題・レポート		50%	
			まとめの試験		40%	
			毎回授業の振り返り提出状況		10%	

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	物理学	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
<p>様々な物理現象を基本原理から理解することにより、看護における物理的考察ができる能力を身につける。</p>						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目：移動動作に必要な力の加減 力とは、力の表示、力の単位、力の合成と分解（図による）</p> <p>2回目：力の分解 反対牽引の例、数値での求め方、三角関数</p> <p>3回目：体位変換に役立つトルクの知識 トルクとは、てこの原理、看護に関するトルクとてこ</p> <p>4回目：安定・不安定 重心と重心線、安定の条件、看護技術との関わり</p> <p>5回目：撃力と骨折 運動量、運動量と撃力、撃力の計算</p> <p>6回目：「力のつりあい」を応用する 牽引、滑車とロープで引く力、反対牽引</p> <p>7回目：摩擦力 摩擦力の種類（静止摩擦力、最大静止摩擦力、動摩擦力）と方向 摩擦力の大きさ、反対牽引との関係</p> <p>8回目：「人肌程度の温度」のあいまいさ 温度と温度目盛、比熱、熱量、温度変化</p> <p>9回目：体熱の産生と喪失に関する物理 熱の伝わり方（伝導、対流、放射）と体熱の喪失、水分の蒸発</p> <p>10回目：知っておきたい圧力の基礎知識 圧力と圧力の単位、血圧の単位（mmHg）</p> <p>11回目：流体の圧力、ネブライザーの原理 動圧と静圧（側圧）、ベルヌーイの定理</p> <p>12回目：血圧に関する知識 血圧における動圧と静圧、最高血圧、最低血圧、測定上の注意</p> <p>13回目：濃度の表し方 溶液、溶媒、溶質、重量パーセント、容量パーセント、原子量 分子量、モル</p> <p>14回目：皮下注射や人工透析を行なう際に必要な浸透圧の知識 拡散現象、半透膜、浸透圧、オスモル、血液透析の原理</p> <p>15回目：まとめ・試験</p>						
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
「ベッドサイドを科学する-看護に生かす物理学-」 学研			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義			筆記試験			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	思考と表現	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
言語と思考の関係を学び、論理的思考の方法と説得力のある言語表現を身につける。						
講 義 内 容						留 意 点 等
1回目：日本人の表現の特色 2回目：日本語の文字表記と現代仮名遣い 3回目：送りがなと漢字の用法 (1) 新常用漢字と付表 4回目：漢字の用法 (1) 同音異義語、四字熟語、慣用句等 5回目：主述対応（首尾一貫した表現にするために） 6回目：思考と論理について 7回目：演繹的推論 8回目：否定文・排中律 9回目：二重否定則・矛盾律・背理法 10回目：ド・モルガンの法則 11回目：条件構造（真・逆・裏・対偶） 12回目：三段論法 13回目：待遇表現（人間関係の中で敬語をとらえる） (1) 基本 14回目：待遇表現 (2) 応用 15回目：ジャンル別日本語表現（事実・気持ち・意見） ／試験						待遇表現等の演習を含む
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
なし（講師の資料）			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・演習			筆記試験80% 小テスト、レポート、授業態度20%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
科学的思考の基盤	英語表現 I	1	30	1	2	院外講師
科 目 目 標						
国際社会に適応できる基礎的な英語力を身につける。						
講 義 内 容						留意点等
1回目：オリエンテーション 2回目：発表準備 (1) 3回目：発表準備 (2) 4回目：CHAPTER 1スポーツで健康な暮らし CHAPTER 2栄養は健康の鍵 5回目：CHAPTER 3現代はストレス時代?! CHAPTER 4エイズ撲滅! 6回目：CHAPTER 5間接喫煙は有害! CHAPTER 6親になるのは怖い?! 7回目：CHAPTER 7病気の子供達 CHAPTER 8在宅看護 8回目：CHAPTER 9奇跡の光, エックス線 CHAPTER 10ハイテク医療と生活の質 9回目：CHAPTER 11病院の発達 CHAPTER 12近代看護の創設者, ナイチンゲール 10回目：CHAPTER 13看護師は患者の代弁者 CHAPTER 14老人ホームの老人達 11回目：CHAPTER 15コミュニケーションは良い人間関係から CHAPTER 16薬物と薬 12回目：CHAPTER 17現代医療か代替医療か CHAPTER 18リハビリで健康を 13回目：CHAPTER 19遺伝子治療 CHAPTER 20安楽死と医学の倫理 14回目：まとめ 15回目：試験						
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
Life and Health Care 「総合英語：健康と医療」三修社			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
演習・発表形式			最終筆記試験 70% 毎時間の小テスト 20% レポート 10%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	暮らしと文化	1	15	1	1	院外講師
科 目 目 標						
人間の生活を多面から深く理解し、現代人の生活者としての姿を学ぶ。						
講 義 内 容						留 意 点 等
<p>1回目：暮らしと文化を見る視点 生活目標に着目</p> <p>2回目：1人ひとりの生活目標 意識される目標／必ずしも意識されない体系的な目標</p> <p>3回目：対話による生活目標形成 1人の場合／複数人の場合／自立困難な場合</p> <p>4回目：生活への気づきと生活目標形成（1） 『もしドラ』（岩崎夏海著）からの示唆</p> <p>5回目：生活への気づきと生活目標形成（2） 消費生活に関する文献からの示唆</p> <p>6回目：生活への気づきと生活目標（3） ケイパビリティ・アプローチからの示唆</p> <p>7回目：生活目標の形成と保健医療専門職</p> <p>8回目：試験(45分)</p>						<p>①板書を中心とし、必要に応じて資料を配布します。資料を必ず読むこと。また、資料に示す文献のいくつかを読むこと（授業中に指示）。</p> <p>②『もしドラ』とは、岩崎夏海著『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』（ダイヤモンド社）です。</p>
テ キ ス ト			サブテキスト			
なし（講師の資料）			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義			筆記試験70% 小テスト（毎回実施）30%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	心理学	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、心の発達課題と心理（認識と行動）の基礎知識を学ぶことで、自己理解、他者理解を深める。						
講 義 内 容						留意点等
<p><人間の心理を理解するための基礎></p> <p>1回目：心理学はどのような学問か</p> <p>2回目：感覚・知覚の心理</p> <p>3回目：学習の心理</p> <p>4回目：記憶の心理</p> <p>5回目：感情・動機の心理</p> <p>6回目：性格・知能の心理</p> <p>7回目：発達の心理</p> <p>8回目：社会・集団の心理</p> <p><医療場面での人間理解の展開></p> <p>9回目：ストレス理論</p> <p>10回目：心理アセスメント</p> <p>11回目：心理療法の基礎 基本的面接技法の修得①（ロールプレイ）</p> <p>12回目：基本的面接技法の修得②（ロールプレイ）</p> <p>13回目：交流分析による自己理解、 看護師と患者の関わりの理解（ペアワーク） 認知行動療法の実践（ペアワーク）</p> <p>14回目：家族療法の技法の修得：ジョイニング、リフレーミング （グループワーク） 医療現場での行動科学の応用</p> <p>15回目：まとめ・試験</p>						<p>ロールプレイ、ペアワーク、グループワークを取り入れた演習を含む</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
「看護学生のための心理学」医学書院			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・グループワーク等による演習			筆記試験			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	社会学	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
<p>社会の仕組み・情勢と人間の関わり・家族・集団の機能を理解することで、人間が社会的存在であることを学ぶ。</p>						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目：社会学の基礎概念 2回目：社会学的視点とモデル 3回目：保健医療と社会学 4回目：社会調査の理論と技法 5回目：健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方 6回目：健康・病気の社会格差 7回目：「働き方」「働かせ方」と健康・病気 8回目：健康・病气行動と病経験 9回目：患者－医療者関係とコミュニケーション 10回目：保健医療の専門職 11回目：性・ジェンダー・家族と保健医療 12回目：地域社会と保健医療 13回目：保健医療制度 14回目：保健医療の現代的变化の位相 ケアと医療：新しい地平を求めて 15回目：まとめ・試験</p>						
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
系統別看護学講座 基礎「社会学」医学書院			「過疎地に生きる」皇學館大學出版部			
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義			筆記試験			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	英語表現Ⅱ	1	30	2	1	院外講師
科 目 目 標						
医療・看護の場面で用いられる基礎的な英語を理解し、看護活動に役立つ基礎的なコミュニケーション能力を身につける。						
講 義 内 容						
1回目: Please speak more slowly		緊急時の英語応答表現				
2回目: Where are you from?		自己紹介とクラスメート紹介				
3回目: Could you tell me your address, please?		基数と序数				
4回目: What department do you want to visit?		基本的診療科・三重中央医療センター診療科				
5回目: Where is the X-ray department?		診療科への行き方を尋ねる・教える				
6回目: What are your symptoms? ①		症状を尋ねる・訴える				
7回目: What are your symptoms? ②		看護師と患者のロールプレイ Review Test-1				
8回目: Where does it hurt?		身体部位と臓器名				
9回目: Have you ever had any serious illnesses?		病名、問診票記載				
10回目: Take one tablet, four times a day		薬の名前と飲み方の説明 Review Test-2				
11回目: Let me make an appointment for your test		検査名と予約の取り方、時間と数字				
12回目: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.		手術前日・当日・後の説明 Review Test-3				
13回目: How are you feeling today? ①		入院患者にいろいろ尋ねる 分数				
14回目: How are you feeling today? ②		復習コミュニケーション Oral Communication Test				
15回目: Review and Term-end Examination		まとめと終講テスト				
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
知念・クリスティーン、上瀧真紀恵 「クリスティーンのやさしい看護英会話」 医学書院						
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義、ペア・ワーク、グループワーク、 ロールプレイ			専門用語、リスニング、表現を含む講義中の小テスト40%、学期末試験60%を基本的に、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの積極的な授業参加度を合わせて総合的に評価。			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	保健体育	1	30	1	1	院外講師
科 目 目 標						
<p>運動量が不足しがちな現代において、健康的な生活を営む上での身体活動を行う意義を学び、自ら運動プログラムを日常的に実践するための手掛かりを得る。</p>						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目：オリエンテーション 2回目：今の自己を知る 3回目：ウォーミングアップ、クーリングダウン 4回目：その場ウォーキング 5回目：ウォーキング 6回目：ストレッチ 7回目：体幹トレーニング 8回目：ドローイン&体幹トレ 9回目：椅子を使った室内でできる運動 10回目：ボールを使った運動（ジャグリング） 11回目：サーキットトレーニング 12回目：体力測定 13回目：ラジオ体操&とこわかダンス 14回目：自己選択した運動 15回目：まとめ</p>						
テ キ ス ト			参 考 文 献			
なし			なし			
主とする授業形態			評 価 方 法			
実技			毎回の出席状況、授業への参加状況60% 授業態度20% 実技試験等20%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	人間関係論	1	30	1	2	院外講師
科 目 目 標						
<p>他者との関わりの体験を通して自分自身の特徴や人間関係の基礎について考察し、人間関係の形成に必要な能力を身につける。</p>						
講 義 内 容						留意点等
<p>1回目 人間関係論を学ぶ意義と目的 ホーソン工場実験 演習) ジョハリの窓 2回目 対人関係と役割Ⅰ 対人関係の成立 演習) 季節のことばワーク① 3回目 対人関係と役割Ⅱ 対人関係の維持と崩壊 囚人のジレンマ 演習) 季節のことばワーク② 4回目 共感コミュニケーション 認知的不協和 演習) 「聴く」トレーニング 5回目 説得的コミュニケーション 演習1) 面接方法 演習2) あいづちの方法 6回目 集団での課題遂行 傍観者効果 演習) 集団での問題解決と意思決定 7回目 集団思考、リーダーシップ 演習) ジグソー学習 8回目 コミュニケーションⅠ 良い印象づくり 演習) ことば使い、わびる 演習) 実習ワークシート 9回目 コミュニケーションⅡ 積極技法 演習) 実習の不安事項についての討議 10回目 カウンセリング 演習) 7分のカウンセリング 11回目 コーチング 演習) コーチング 12回目 アサーティブ・コミュニケーション 演習) 課題に個人、チームで取り組む 13回目 保健医療チームの人間関係 演習) 慢性疾患の患者への対応 14回目 患者を支える人間関係 日本人の死生観 演習) 終末期患者とその家族との対応 15回目 まとめ・テスト</p>						<p>様々にグループ分けを行い、その中で演習や討議を通して学ぶ。</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
<p>系統看護学講座 基礎「人間関係論」医学書院 適宜プリント配布</p>						
主とする授業形態			評 価 方 法			
<p>講義・体験学習（グループワークによる演習）</p>			<p>筆記試験100%（平常点含む）</p>			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	倫理学	1	30	2	2	前田泰徳
科 目 目 標						
人間の存在や価値についての考えを深め、多様な人間観、死生観を学ぶ。社会の規範や生命の尊厳など倫理の本質と医療をめぐる倫理的課題を学ぶ。						
講 義 内 容						留意点等
1回目：倫理学の概要、歴史について 2回目：生と死をとりまく状況について 3回目：死をめぐる諸問題（1） 脳死臓器移植の歴史・概要 4回目：死をめぐる諸問題（2） 脳死臓器移植の諸問題 5回目：死をめぐる諸問題（3） 安楽死尊厳死の概要 6回目：死をめぐる諸問題（4） 安楽死尊厳死の諸問題、終末期医療について 7回目：死をめぐる諸問題（5） グループワークとまとめ 8回目：生をめぐる諸問題（1） 生殖補助医療について 9回目：生をめぐる諸問題（2） 出生前診断と選択的人工妊娠中絶について 10回目：生をめぐる諸問題（3） グループワークとまとめ 11回目：その他の諸問題（1） 医療資源の配分 12回目：その他の諸問題（2） インフォームドコンセント、自律性の尊重 13回目：その他の諸問題（3） 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 14回目：その他の諸問題（4） グループワークとまとめ 15回目：まとめ 筆記試験						
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
なし（講師の資料）						
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・グループワーク			筆記試験60% レポート40%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期		担当講師
人間と生活・社会の理解	倫理学	1	30	2	2	院外講師
科 目 目 標						
人間の存在や価値についての考えを深め、多様な人間観、死生観を学ぶ。社会の規範や生命の尊厳など倫理の本質と医療をめぐる倫理的課題を学ぶ。						
講 義 内 容						留意点等
1回目：倫理学の概要、歴史について 2回目：生と死をとりまく状況について 3回目：死をめぐる諸問題（1） 脳死臓器移植の歴史・概要 4回目：死をめぐる諸問題（2） 脳死臓器移植の諸問題 5回目：死をめぐる諸問題（3） 安楽死尊厳死の概要 6回目：死をめぐる諸問題（4） 安楽死尊厳死の諸問題、終末期医療について 7回目：死をめぐる諸問題（5） グループワークとまとめ 8回目：生をめぐる諸問題（1） 生殖補助医療について 9回目：生をめぐる諸問題（2） 出生前診断と選択的人工妊娠中絶について 10回目：生をめぐる諸問題（3） グループワークとまとめ 11回目：その他の諸問題（1） 医療資源の配分 12回目：その他の諸問題（2） インフォームドコンセント、自律性の尊重 13回目：その他の諸問題（3） 先端医療技術がもたらす倫理上のジレンマ 14回目：その他の諸問題（4） グループワークとまとめ 15回目：まとめ 筆記試験						
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト			
なし（講師の資料）						
主とする授業形態			評 価 方 法			
講義・グループワーク			筆記試験60% レポート40%			

領域:基礎分野

学科目	授業科目	単位	時間数	履修学年・学期	担当講師
人間と生活・社会の理解	教養と感性	1	30	1 1	院外講師
科 目 目 標					
創造性豊かな人間性を養い、看護を学ぶものとしての教養と感性を高め、主体的に学ぶ姿勢を身につける。					
講 義 内 容					留 意 点 等
<p><マナー></p> <p>1回目：マナーとは～日本の礼儀作法の成り立ち ・西洋のマナー、アジアのマナー ・席次 演習) お辞儀の仕方など</p> <p>2回目：好印象を与えるコミュニケーション ・あいさつ、言葉遣い、話し方、身だしなみ 演習) 敬語など</p> <p>3回目：ビジネス・マナー ・手紙、電話対応、電子メールのマナー 演習) 返信はがきの書き方など</p> <p>4回目：食事の文化と歴史 ・和食、西洋料理、中国料理、お酒のマナー 演習) 美しい箸使いなど</p> <p>5回目：冠婚葬祭のしきたり ・人生の通過儀礼について 演習) 玉串の扱いなど</p> <p>6回目：祭のしきたり ・日本の年中行事について</p> <p>7回目：まとめとテスト</p> <p><音楽療法></p> <p>音楽療法の定義、音楽の作用、対象、演習</p> <p>1回目：音楽療法とは（歴史と定義）概説</p> <p>2回目：音楽療法の手法、対象者 各論</p> <p>3回目：音楽療法演習① 楽器を使ったワークショップ</p> <p>4回目：音楽療法演習② CDを使ったワークショップ</p> <p>5回目：まとめとレポート</p> <p><芳香療法></p> <p>アロマセラピーの概要、精油各論、歴史 演習</p> <p>1回目：アロマセラピー「芳香療法」の定義と歴史</p> <p>2回目：医療現場でのアロマセラピー 精油の各論</p> <p>3回目：演習（ハンドトリートメント）確認テスト</p>					<p>専門職業人としての接遇力とマナーの習得を目的としている</p> <p>・マナープロトコール検定3級受験（任意）については、授業中に説明する。</p> <p>・幅広い年齢層に取り入れられている音楽療法の講義と演習を通して「音楽の利用法」を学びます。</p> <p>・演習では、楽器を使ったワークショップの他、ストレスマネジメントとして身近に生かせる音楽の活用法も実践します。</p> <p>・アロマセラピーの基礎を身につけるとともに、それを自分らしくどう生かせるか？を知識と演習の中で学ぶ。</p> <p>演習：ハンドセラピー アロマを使用した呼吸法</p>
テ キ ス ト			サ ブ テ キ ス ト		
<p><マナー></p> <p>最新版「『さすが』と言わせる大人のマナー」 日本マナー・プロトコール協会</p>					
主とする授業形態			評 価 方 法		
<p><マナー></p> <p>講義、演習、実践ワーク</p> <p><音楽療法>講義、演習</p> <p><芳香療法>講義、演習</p>			<p><マナー> 筆記試験</p> <p><音楽療法>レポート</p> <p><芳香療法>レポート</p>		